

| | |
|----------------|---|
| 項目 | 入力欄 |
| 科目名 | 専攻入門科目 社会と文化専攻D |
| 教員名 | 加藤真義・高橋準 |
| 授業概要とねらい | 【テーマ 福島県浜通り被災地・被災生活の現在】震災から6年余りが経過し、「復興」の進展が報じられている。ある部分でそれはそうであり、それとして望ましいことでもあるが、他方で、現在の政府や福島県の「復興」政策は、原発被災の長期性にそぐわない拙速さをもって進められており、いわば「復興災害」という事態を生みだしている。その実態を調べ、記録することを課題としたい。この授業では、(1)フィールドワーク、とくにインタビュー(聞き取り)調査の手法を用いて、(2)震災体験を記録し、その体験を継承していくとともに、当事者の観点からみた現在および今後の生活課題を明らかにすることをめざす。 |
| 望ましい水準 | (1)フィールドワークの基本を理解している〔理解力〕。(2)前提となる情報を収集することができる〔情報収集力〕。(3)インタビューをおこない、その結果を記録することができる〔応用・実践力〕。(4)結果について、他の参加者と討議し、検討することができる〔コミュニケーション力〕。(5)結果をまとめ表現することができる〔表現力〕。 |
| 授業計画 | 【 D(前期)】(1)ガイダンス(2)-(10)震災被害と「復興」についての先行研究、資料の確認(11)-(13)対象地、対象者の決定(14)-(15)フィールドワークについての最終確認 【9月(授業期間外)】・フィールドワーク(2回予定) 【 D(後期)】(1)聞き取り結果の確認(2)-(10)聞き取り結果の報告と報告書原稿の作成(11)-(14)報告書原稿の確認と資料の補充(15)報告書の作成 |
| 教材・教科書 | 特に定めない。 |
| 参考図書 | 授業中に適宜指示する。 |
| 参考URL | |
| 授業以外の学習 | 【1】授業時間以外に最低2回(予定では、9月中旬に2回)、フィールドワーク(聞き取り調査)を予定している。日程については、先方と参加学生との都合をふまえて調整する。【2】最終的な報告書のまとめにさいしては、講義終了後の作業も場合によってはありうる点にも留意されたい。 |
| 成績評価の方法 | 出席状況、報告、討論への寄与、フィールドワークへの参加、報告書の作成への参加などを総合的に評価する。 |
| 成績評価の基準 | 「望ましい水準」に照らして、A:すべての項目において高い水準に達している。B:一部の項目において高い水準に達している。C:すべての項目において望ましい水準に達している。D:一部の項目において望ましい水準に達していない。 F:多くの項目において望ましい水準に達していない。 |
| オフィスアワー | 特定の日時を定めない。アポイントメントをとったうえでの面談に適宜応ずる。 高橋<a082@ipc.fukushima-u.ac.jp>、加藤<mkato@ads.fukushima-u.ac.jp> |
| 留意点・注意事項 | 【1】「社会と文化専攻入門科目 D」(前期)と「同 D」(後期)は、通年履修を前提とし、社会調査の技法を学び、報告書を作成するまでの一連の経過を修得することを目標としている。D、D一方の履修は認められない。【2】調査旅費については、検討中だが、もし補助が得られない場合には、実費自己負担となる。 |
| その他 | |
| ディプロマポリシー大区分1 | 行政政策学類のディプロマポリシー |
| ディプロマポリシー小区分1 | 問題発見・調査・解読能力(行政政策学類) |
| ディプロマポリシー大区分2 | 行政政策学類のディプロマポリシー |
| ディプロマポリシー小区分2 | 表現力・コミュニケーション能力(行政政策学類) |
| ディプロマポリシー大区分3 | |
| ディプロマポリシー小区分3 | |
| ディプロマポリシー大区分4 | |
| ディプロマポリシー小区分4 | |
| ディプロマポリシー大区分5 | |
| ディプロマポリシー小区分5 | |
| ディプロマポリシー大区分6 | |
| ディプロマポリシー小区分6 | |
| ディプロマポリシー大区分7 | |
| ディプロマポリシー小区分7 | |
| ディプロマポリシー大区分8 | |
| ディプロマポリシー小区分8 | |
| ディプロマポリシー大区分9 | |
| ディプロマポリシー小区分9 | |
| ディプロマポリシー大区分10 | |
| ディプロマポリシー小区分10 | |
| ディプロマポリシーその他 | |